



航空部

■ 1952年(昭和27年)公認

部員数

62名



部長
戸川 望
理工学術院
教授



監督
宗 裕雄



主将
川島 旭陽
教育学部
早大学院

2025年度、航空部はさまざまな出来事がある中、監督、コーチのみならず、主将、副主将、主務をはじめとする幹部部員のみならず、そして航空部員のみならずが丸となり、日々の訓練や合宿に取り組みました。これまでの航空部の伝統に基づき、そしてまた新たな航空部の1ページを創ることができました。

卒業するみなさん、航空部で培ったさまざまな経験・想いを胸に刻み、感謝の気持ちを忘れずに、ますますのご活躍を祈願しています。応援しています。誇りを持って、がんばっていきましょう。

学生生活は4年間という限られた期間となりますが、航空部での活動を通して皆さん大きく成長しました。特に最後の1年間は、今までの経験を活かして伸び伸びと活動することで、想像を超える充実した年になったはずです。安全を最優先に活動する中で、一歩を踏み出す勇気を出し、多くの新しいことにもチャレンジすることで飛躍的な成長を遂げられたのは仲間がいたからで、その仲間と過ごした時間は何事にも変え難い経験です。辛いことも多い活動の中で、頑張ってきたこと、改めて感謝申し上げます。ここで得られた経験は、これからの人生においても役に立つ時が必ず来るはずで、これからの皆さんの更なる飛躍に期待しています!

この4年間というのは、実に多くのことに挑み、失敗し、笑い、また真剣にやり切り、悔しみ、成長した期間であったと思う。空という初めて挑む舞台でとことん全力で打ち込み、妥協をせず、安全を忘れず、己と機体とで自然に挑んだことが我々の確かな足跡となったことは間違いない、疑いようがない。我々学生に対し寛容かつリスペクトを持って叱咤激励してくださった教官の方々、日に日に力強く支えてくださったOB OGの方々、向き合い続けてくださった先輩方とついでにきてくれた後輩、各々異なる色を持つが同じ方向を突き続け、ともに肩を組んで走り切った同期。最高の場であった航空部に感謝。養った翼を大切に、次の舞台でも必ず高く翔けると思う。



主務
細川 航希
政治経済学部
芝

私たちが航空部で過ごした4年間は、部の歴史の中でも劇的な成長の時期にあたると思います。象徴的なのは、1年生の頃は1日の訓練で50発飛ばせていた御の字であったものが、2年生3年生と上がるにつれて70発80発飛ばせるようになり、しまいに133発を達成するまでに至ったことです。その成果として、36年ぶりの個人団体ダブル全国制覇を目の前で見ることができました。自分たちが全力で考え抜いたアイデアが、自分たちの目に見える成果を生むことを繰り返して実感できたことは、何事にも代えがたい経験となりました。実りの多い4年間を支えていただいた指導陣の皆様、同期のみなさん、先輩後輩方に深く感謝を申し上げます。



本年度試合戦績

成績(早稲田勝利:○、引き分け△、敗戦●)

◇第43回全日本学生久住山岳滑翔大会 (8月21日~26日)

- ▷4位 小倉 彰太(887.0点)基幹2
- ▷8位 磯部 寛大(798.0点)教育2

◇第28回東京六大学対抗グライダー競技会

(8月31日~9月6日)

中止

◇第28回全日本学生グライダー新人競技大会

(9月13日~19日)

中止

◇第41回関東学生グライダー競技会 (10月10日~19日)

中止

◇国家安全確認飛行会 (3月10日~14日)

- ▷フェアプレーチーム賞(3872点、全国大会優勝相当)
- ▷富田 航太郎(ベストフェアプレー賞(個人1位)、2221点)

政経4

▷牧野 航太郎(フェアプレー賞(個人9位)、832点)基幹4

▷川島 旭陽(フェアプレー賞(個人10位)、819点)教育4

